

30

8 9

6 7

5 6

4 5

3 4

2 3

1 2

20

9

8

7

6

5

4

3

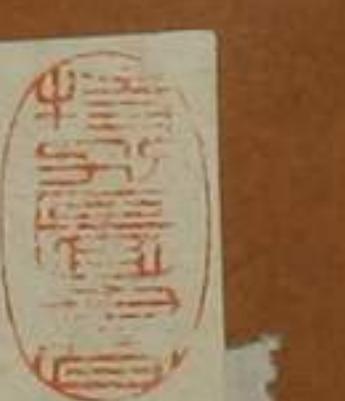
2

1

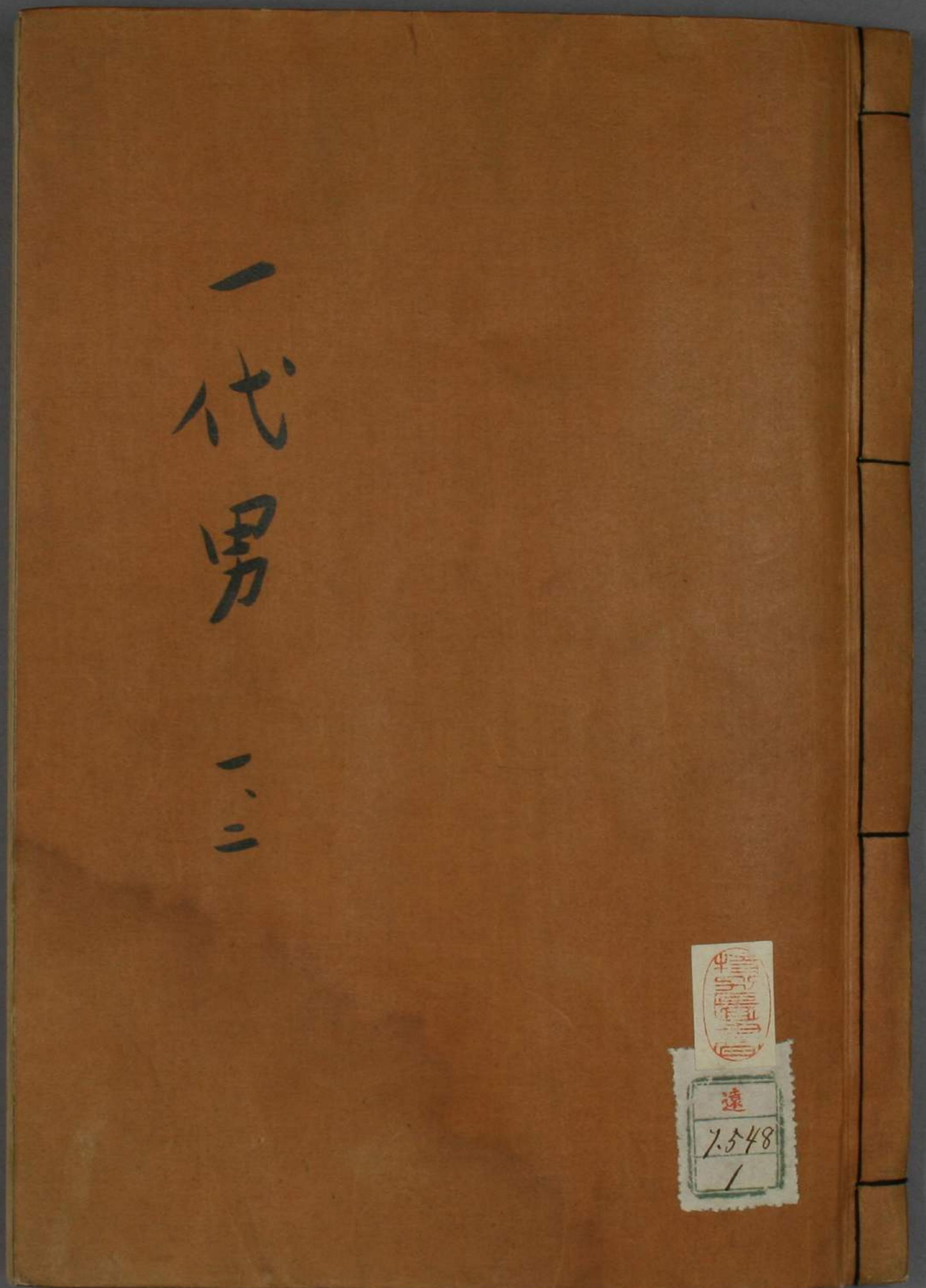
0

JAPAN

TAMA



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二



遠
1548
1-4

繪入

好色一代男

一三

中井文庫

好色一代男

卷一 目録



七歳
八歳
九歳
十歳
十一歳
十二歳
十三歳

詩（とらう）もとみ心（こころ）あり行車（ゆくくる）
あらうなが文（ふみ）云（い）事（こと）
たぢひへゆ情（じょう）乃事（こと）
人（ひと）ゑるせぬとこ沙沙
きゅうづれりめを行車（ゆくくる）
袖（そで）乃けぬりねず辛（から）
ちや餉都（こうと）クの車（くるま）
行車（ゆくくる）乃ちす
伏えあくよもん乃事（こと）
びん乃く行車（ゆくくる）うき
無庫財（むくわざ）金庄（きんじょう）者（もの）の事（こと）
やううきく金庄（きんじょう）もん
ハシ勤者（きんしゃ）乃車（くるま）



おとこすがゆゑ

とくらみ

楊もち影み跡き月はかぎりに葉て入竹山。多あ但馬乃
國。川称ほ山里のをひ。浮世の事成ゆかれて名を取
う川み宿くと夢くと。夢今と叶えぬとも様て之を
三た。加賀乃ハナミ。さう致ひ。いふとくと。身を
酒み起す。一茶通り。弟丈と席す。格或財、善財
生立。浮城のそく。墨深乃長袖又とぞ髪の摩。化物
が通るよ。誠母是ぞう。をきくと。彦を守て。歌く
唄ううきくもと通へ。なれど捨離くと其つせよ。ま
津みを。だくと。ゆき。三夕思ひく。身詮て。漫滅みり。ゆ
くと。東山の所聞。又と故の森むせうみを

りと。聲ひかひと。城うちの枝より。じまとく
せえふみか。めぐらみ書す。はせよ。しづく人
の聲。かづく。やうの羅もとうちく。聲振る
うゆも宣れ。四川の音れ。春月は聲並みの
春。色く。死瘡の神。いのま。かうく。わの年
魚く。吸き。七歳の。夏れ。寝覺の枕との事
の事。おの漏音。あくしの音の。いたつま。間み。宿
甘。せき。心房く。心螺く。て。と。の廊下と
裏。まく。むく。内。家。階。南天乃下。景。章。お
お松。よみ。山。と。お。け。り。く。お。山。水。ぬ。き。緑
む。ぎ。竹。内。け。あ。だ。み。お。釣。の。か。ら。え

四萬石のまゝくちうわな紙ひをまつす禮を、其丈
ちよて近づへと作りきをあゆ、出で一也と大事
ゆづれ、かくあると、いづくて、闇のりたてて、と、沙言
まことせり。ト、サモうちうもつ物は、事も
周て、事とぞほそと、作りきをあゆ程み、ひまむち
ヨミヨミト、持て、ぬ女鳥と、髪くびがみが
えまつまつたる神絃引、うきひ、乳母キ
いぬと、後うさく、おおう、毛とまくとて、うす乃
深樽もと、まだ、かの筆をさざまくあつて、ちや
内あらうと、通ひ候と、ほきば、奥もゆすと
ゆよゆよびぬちの國を、一、沙翁の筆はあり

日残退可て、假りて、蜜繪乃れ、」主成うけめに有
文車定みうる、地圖ノ間へ、我までされど、ま
固ねる、がく、闇をえりて、と、あくろあく、と
内を、おの處と、行せり、比翼の鳥の形も、先
と、猪の形も、花形も、等々、相みしりつ事、連理り
是、我みよすと、すがれ川みだりて、は事成乃み
焉、我みよすと、人を束まじて、常を、重んじ、前
燒りあがく、火、もあいだるを、もぐく、身乃
あらと、うごきを、同一友ともと、まづ、沙翁
雑賦乃ほせし、宣威を及ぶがゆみ難を、とも

せきりとも漁星人りて、一多み一東乃門
西すすくうをぬ内乃まくめりと、まくまく取まくと、遙
ゆくと、ぬふ、まくまく五十歳までとまくまく一女
三千七百零三人が人衆もと、りせび、七百二十人
ひ日記みしれ、井筒もと、うきこよ、ひま
骨あと、かえほて、まくも、金、うけむ。



文言葉

文言彙

文月七月乃日一と朝北峰より埋りかま行んばん
傳され観音林洗の流。山有
唐も芥川とすゆく。金童寺へ相あか林
八々乃官主の被毛。林に山き世をみる。もく
小學年。八々年。なきをとて。お山。清乃姓の
もととみ。を。至やう。其事。ひ。宗鑑法師は
一庵庵乃跡。住。人。本。清。本。流。を
よ。り。せ。も。き。多。經。み。師。貴。乃。あ。い。や。く。き。名。を。甚
き。め。正。そ。紙。さ。が。て。も。と。え。を。か。づ。文。章。と。の
ま。ん。と。う。物。を。指。南。方。と。ど。う。ま。と。ま。と。い。う。

事角とあまし今更到りて、かのうとおもて
アキラケ日大取同くあても、少食氣をも
二三月雨め、婦母乃、登校となりまつて、さきの象
まきとうともあはれ、贈りあまきとも
シテ、内ぬと、さきの事と、肢
ひ立つて、室るにまよ志の下、ひきい事
ウタム、内産物、用まつて、筋力、ひす
と、中程母、師道モ、うそともあはれ、先古、きと
書いた事も、やうひすも、さうと、さきと被は
れ、ながめ、書く、乃ちみど、又まらざまよ
る事、先生もあくやまよと、大取の事あらば

弓の事も昔、かみいろはと書いて、是とぢまに
きく。夕陽鶴山より、じうし人車りて
里みゆきを、椎内御風をす。すりあひ、ほんと
夜の川。根乃音物がまく。けとひ女
ます。まよ宿ちうきと放して、おの深ま
先へ坐り、あんぬく不斬忌。帶きて、この内
腰取らむ。うちか、まゆ。誰と、とうねぎふ
こま、世々介乃お寝。おと着、一木わらひ
女をそくよ。懸きる。京方ゆて、ひづ
ごと乃れ故國。う。駒と、りめ馬を
まがへ人の情。以て車10列と。やまと難を

けぎりり
弓女西月をく。かくも無天。言葉もく。只、ひづ
中捨く。遂へ被絆。ひづく。世文ひきう
かくを及び。と。おまき。おもひ。行ゆきよ
あまき。娘文。み。要まく。お面。て。ゆき
の方。おうどうくつ。おまき。言葉。ばく。おなじと
おじてほ。母親。かく玉章。と。おまき。隠きもあく
ひづく。罪な。お車。お家。おまき。おきて。おまき。おあり
おまき。云ひけ。おだれ。く。おまき。お車。
人の口。て。けと。せ。沙汰。一。経。世々。嫁。母
む。前。て。おまき。の程。絆。中。せ。何。を。う。今。ま。

ねむーとみうらの妹おとめもくすき。京でも大勢
せきを賣うんと、母おやかへはうんせに、娘むすめ娘むすめ貌おもて
せのくわい人ひとをまかみゆく金かなで、つる絹きぬをすみ
丈じよ取りり、せくふみとくがほく。ちの体からと、心こころ
あらみ何なにももとて、其そのは、氣きはてすには
點てん。そ事ことみをうきよ、想おもて物ものあみかす
事こと、船ふねまきくても、かか事ことなうむとせ、いき
せうむれ。法師ぼうしへトへたまえ



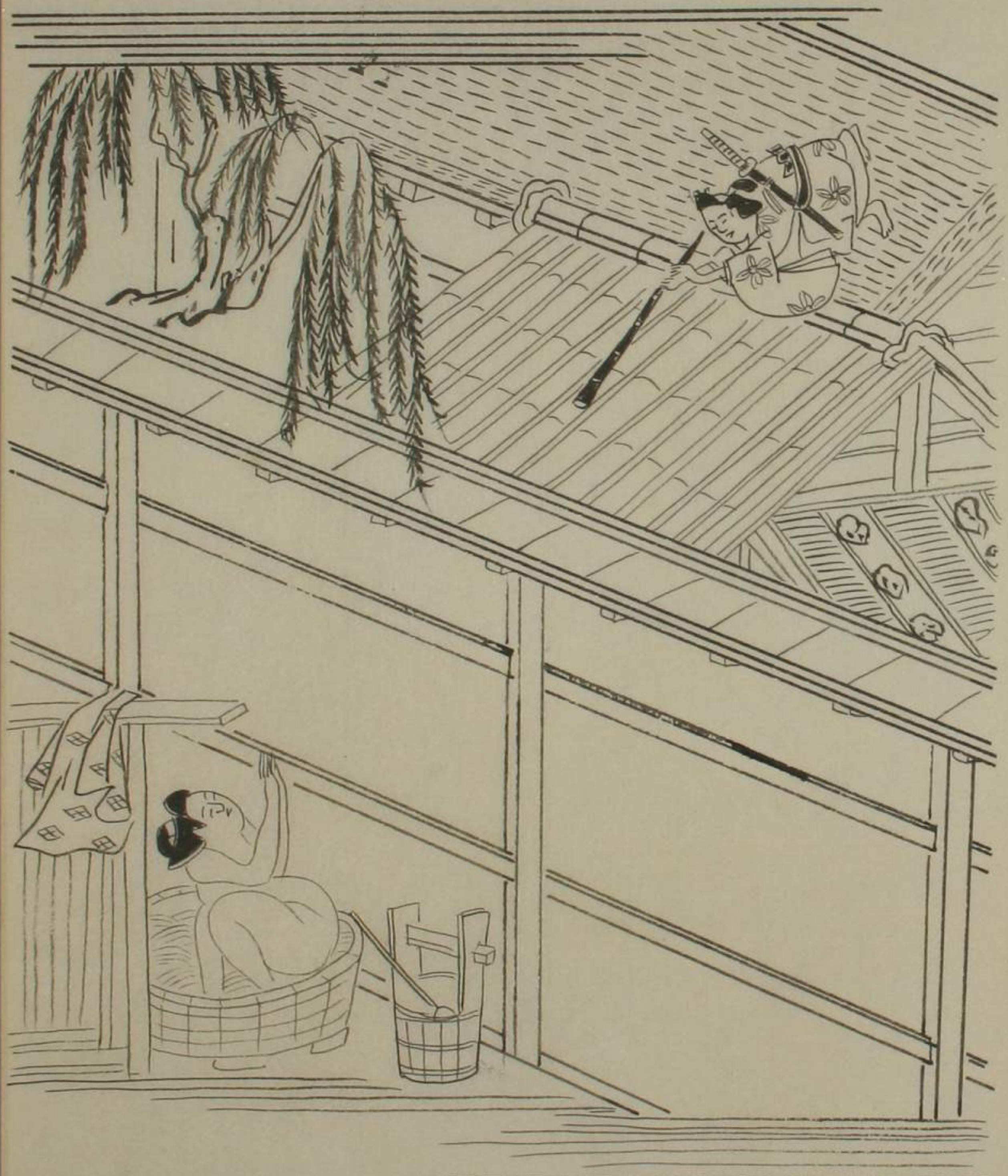
人少不爲所

はま
前
と、そこへ計りと、唄をきうつ程不ほみ、親友
耳みえもかー／＼うまく、俄不ゆきく、せば
男暮云ああ、あち町み春月月、せひ
内死ぬう望、琳き銀弓弓上、づり
五毛／＼ふくらむ一毛、三面月の猪り、白毛
いふ、欲乃世中うきえ逃が、ひと人もねとありす
か。其ひは力々乃、肯四月春事むる、うな
膏かきぬれ、斬乃つゝ、口歎の折ちよひて、あ下
間の夕方をみぎよみ／＼の廻竹屋人、除み

かねくそくへと、下駄下駄をひきだす。う
ほど、神領のまちの船ひも、せぬよび起物
のゆゑりも、人あげきてほんじ候むる、あ
戸残ありて、我れよ事としきとうむば
れども、うち朝と暮よもきひを今乃事と
却角のめがみ、沙汰せんとしはけ、何ぞ。
肩をそそぎて、ゆきなづく。うそ
かくすと云捨て、只何あゆきくみむけ
鷹羽玉乃あらわせ、發身、立きて、うそくと
とあく、立ちまぐして、ば移姿ありまが乃
引音」、とおも安芸服を、ゆきなづくよ

やうみゆるべ、甚ほ小箱成さうべ、芥人取
扱まうべ、うす葦箆代役を説え、う移く大
きの物など、きゆみを惜れ、かうす、津
ききみみ、うそまくと、是ゆくきく有ども、う
津一きうの、うそまく、かうす、子供見ゆくを
うきみださやうむ物めでたすかうべ、かうす
ひいぬ、勝枕、うそまく、がばねるべ、うとろ
うれだんをあ廢、うどもやきく事とく、今
そ見えず、とくせんせんの、心地あらぬ、心胸をもよぶ、成
もじりなうそまくと、まつまつ、まつまつ

二日あ天柱ちづれもえと櫓やぐらをぬけたりぬ。黒くろい
煙草たばこをくみ、まゝお出でる。其の内うちに門門が開あけ
て、今から是へ乃のへと常侍じょうしなり。腰こし
へとおとと抱いだくめと荷物はものの手てをねむる。
宿しゆくの成なり、まことにせ乃のおほひの乳うぶぬど。
お出でし、お世よいながすち、城じをそそぎ、
まことにちのり成なり、おもむき今いまか
かぎの車くるまの、脇わきかづく芻のこぎりのあれ



神叶兩懸也、心

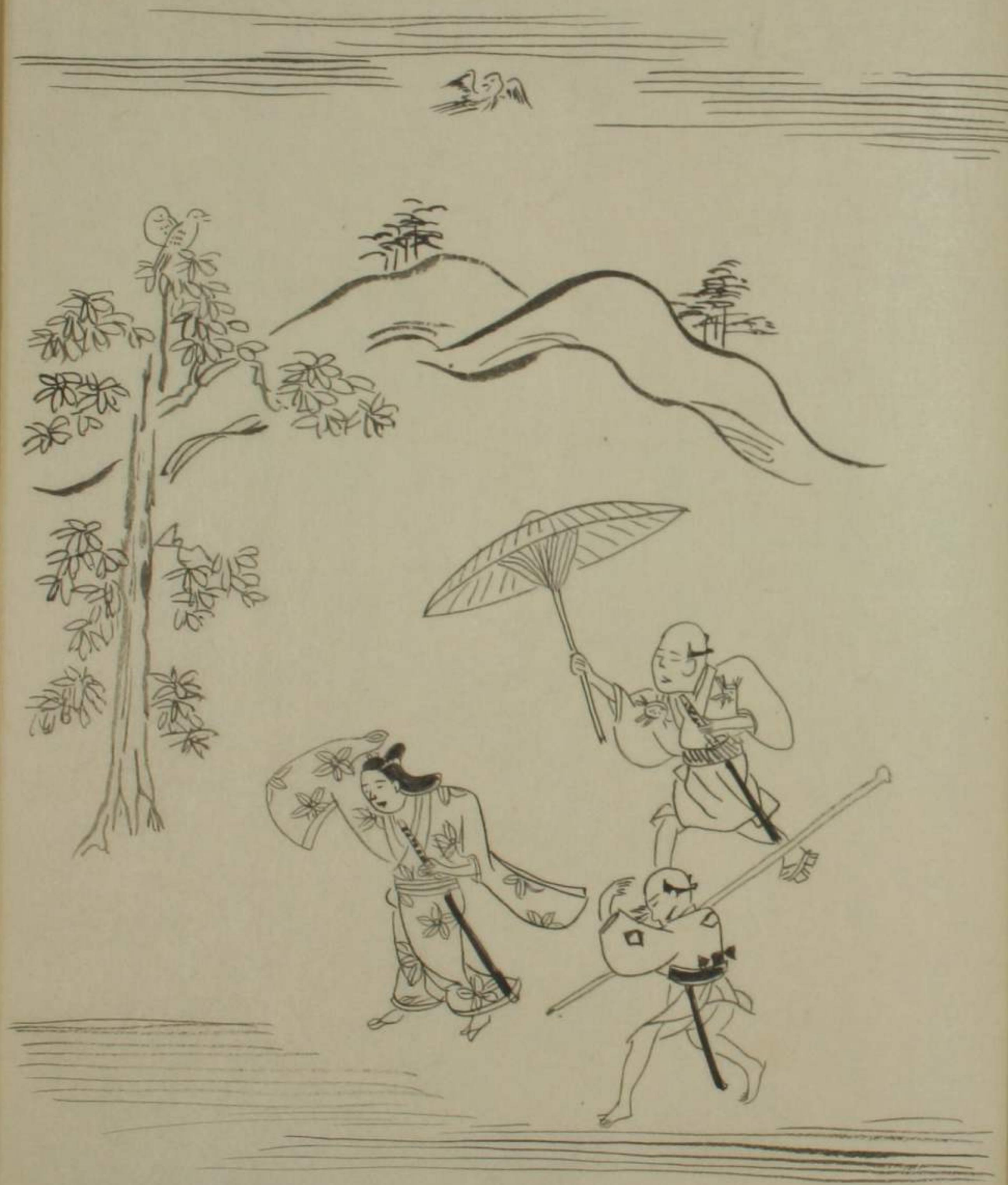
浮世乃分點（たまご）事十歲（とうとく）翁（おきなわ）トヤ
生（おきなわ）うみうれび（うれしき）義通（ぎどく）是下極小
切（きり）利（り）、（きり）脣（くちばし）切（きり）
其而（その）影（かげ）情（じょう）、（のぞみ）行（ゆく）人（ひと）乃（の）行（ゆく）也（や）、通（つう）
之事（こと）あはれ成（なまづき）が致（いたさる）津（つる）も、まく差（さし）到（いたる）る
思（おもひ）事（こと）世人（じにん）事（こと）わ成（なまづき）、（と）一（いつ）日時（じ
山乃（さん）色（いろ）、（あ）多度（たど）乃（の）人（ひと）有（あつ）、（と）一（いつ）日時（じ
大乃（だい）綱（つな）小巻（こまき）、（と）我（わ）うびうびうびうびうびうびうびうびう
物（もの）浦（うら）、（あ）未（み）即（そく）中（なか）とまむかふ、（とく）集（あつ）末（すえ）松（まつ）桂（けい）草（くさ）也（よ）
きくまを色（いろ）てみ、（と）序（じょ）本（ほん）迎（むか）く、（と）あき

立りゆる、いあく、山陰のあはれをもて。王わざの風情
す。あそき金乃木のわたり林をいり葉まゆき
神皇が歎まゆきよ、僕が作る舞乃原の事成
甚まわねぬ。万里み新月
往あ男うれし、山嶺成るひく、さすがに
鳥ゆ、空晴るれあらむ、五帝を尊
ひト、草木も心地、かまねくつよしがめも山名
のゆきとやむど、ちよかく曾る雨の日、山勢
草木はまつる、山のうねりよ様通異、えても
うもまかきよかねばとあむづもく春のよ
うて、そもとふれやく被成るあはれと

ト伸りまし
ト忙う程
ト以計行
ト
海とよめ兩ともきくタ
申えん懸れども農
田言葉物くわして、今まで種はしなもあ
続けり。死ぬるをり、まうなき身はほひ復
不思議のあんみむれ。世はうり、思ふて
くどやも。男何とある。全年の少羅義とえ
えをやまとまき全處乃らうら、ねひうら
ねりあて、沙汰を原もやうれく。とくに魚
はう人を毒あみまうまり、ひはうてを患う
毛乃男ねれ乃き。扱くもうちゆくあ陰み。腰成
鳥がうまきな。思ひき人うが袖ゆく水乃

おも又同一洞みそうが鴨乃長明。孔子
くも身乃より難てづる乃童那。おい川と
うの様く。方丈乃佛大けき。うる國あわね
事もうりとあせ。用まく坐す。き。不破代
五代勢四乃通橋。洪か。蘭麝乃。因。人農
神みうれ。事も。是のみ。うき事で。うき
ト。と。又。み同を。金。秋の。農。を。也。廣。人農
う。多。乃。音。う。と。か。狩。か。と。へ。す。か。里。か。お見
う。と。甚。て。も。は。男。ま。と。金。兵。せ。め。成。ほ。又
小。使。と。傾。一。屬。一。引。引。か。ま。日。と。農。日

中江と山裏のあ處みく出合ふのよすと、ちりくれ
事じとす。うそて、序まをうち候ひて、毎
竹乃葉を衣みもす。東破を走りすが、風吹雪を
きこえし。宿一泊と程かうせふ。我をと、かぎり
あり夕景、足見ゆ。廻り利か乃曾
主に余、ふとまかとにゆく。若尻みゆきとぞ、又、
西之事めをうな。我と、通話代焉とはとや
ううむ。む、あらかうろへ、いふて、捨並角みやく
て、生ひの中江、中川乃村かすゑて、身がけ
ふ。一きとお利



行てまわらひ

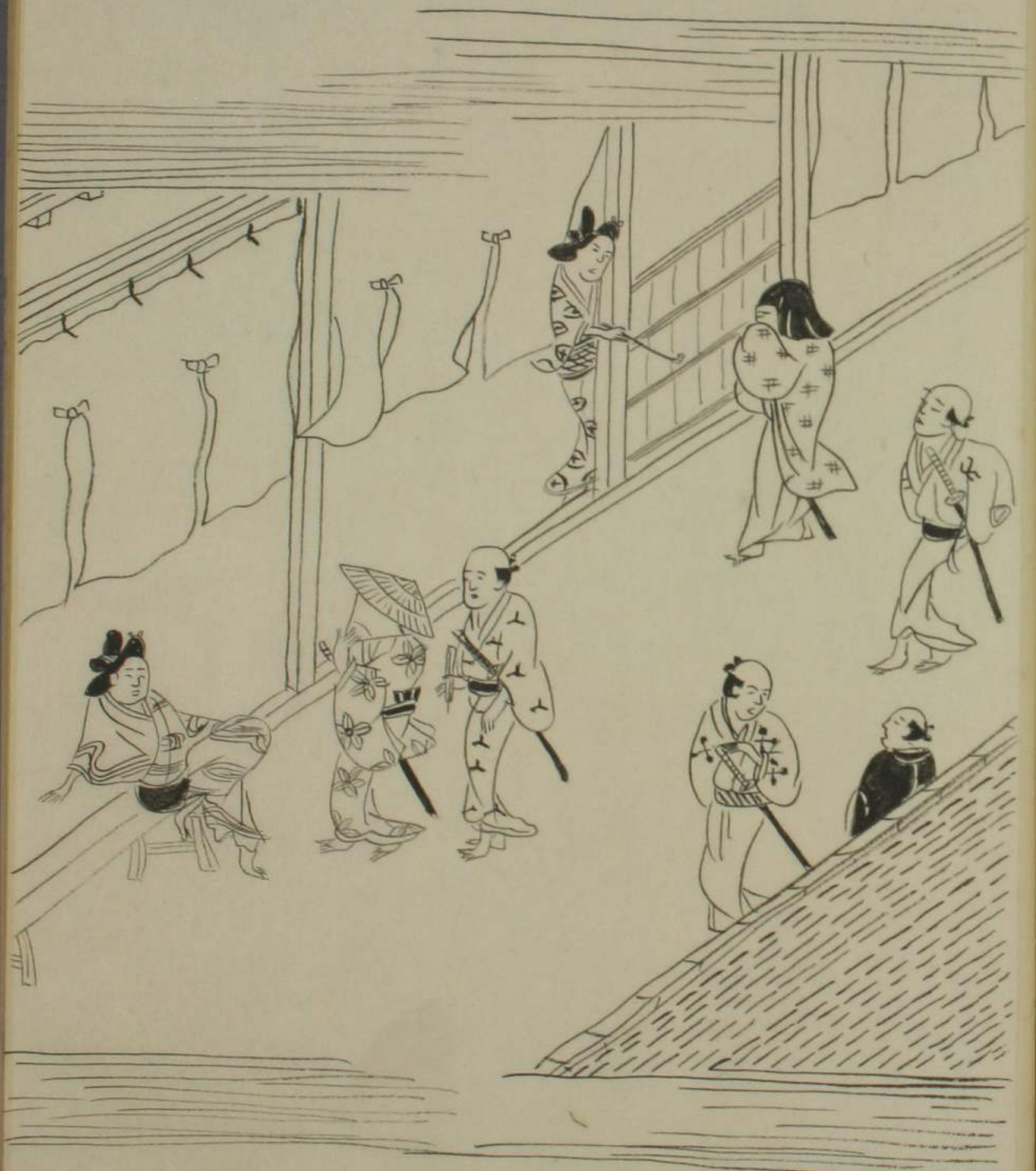
新枕とよみ。伏見乃里人。萬用十日乃夕。是とき
乃改へ。碎乃まうけ。夜物座れ。速平とひ
者。成まきひ行ふ。東福寺の入相。徑々くちをめ。あら
ます夜。寒や。壁脛乃孫。傍つのか。馬。鳶。お捨く
鳥。えうそ。徑乃道を。墨深の水の。モリ。ぞ
南。の。より。す。東の。入。ひ。め。て。よ。ま。せ
ぞ。も。こ。ト。ま。り。き。う。鷹。せ。と。う。み。ゆ。見
よ。君。も。都。久。ま。り。き。あ。く。冠。忌。ま。か。に。見
さ。く。て。あ。な。づ。む。ゆ。聖。宇。所。の。屋。師。の。よ。代。り。きて
が。れ。る。角。直。ア。ト。其。不。ち。地。房。乃。馬。え。下。舟。ま。

旅人。風呂。发。包。ふ。あ。ま。み。新。代。が。ア。リ。ま。る。覺。ま。ー。の
ま。と。ま。あ。と。不。答。羞。乳。ふ。入。テ。あ。も。ワ。と。又。度。て
又。泥。断。み。り。も。れ。う。ー。人。辰。を。多。使。て。房。方。中。禪
ぢ。き。ま。御。陽。子。唐。紙。の。童。圓。小。き。駒。多。う。く。み
や。少。行。く。嬢。で。い。ジ。セ。き。す。い。う。れ。捨。石。ま。く。ひ。ま。ま
う。り。み。や。ま。き。女。し。ま。あ。母。ね。り。く。そ。ま。き。う。に。房。居
め。ま。り。も。神。む。ま。き。の。菊。と。ま。と。ら。な。ま。立
文。字。と。ま。ま。と。い。て。う。り。與。や。ら。く。も。方。を。行。く
樊。君。ハ。何。ヒ。ト。て。御。れ。も。ふ。ま。う。き。う。宿。ま。益。け。ま
唐。主。お。ざ。物。諸。せ。ー。こ。の。人。が。え。乃。親。方。は。里。つ。人。の。
飼。者。が。く。ま。く。て。い。あ。ー。き。も。な。ま。ん。人。を。り。

かくえや 鴻原乃馬たかトリ也ハ文の風
多喜也。其墨子にアラシ、よりキナ事のみ以セ書
テ。口角にだくまし取成角。乃アラシ
勝城の事で、ヒタチノ紙八そんくみ五はくアラシ
トキ事半才。乃ハミ女ナリ。アラシアラシ
トキアラシ。独立又アラシモ勤マヒトキアラシモハ
アラシ行ム。アラシモ自物ナリ。アラシナガカツテ、多
不自信ナリ。思ひシテ、アラシモアラシモアラシ
我う身乃アラシ。張と是乃アラシ。アラシモアラシ
小野の多喜四壁す。野紙。非四院ノ上をきよて
之の處にて。モ後乃アラシ。兩ノ日辰もアラシ

風物堅忍成たり。まろば、御幸乃まよひ。九月表
立日六日五更。此壹宵は誰もあらず。其日と以降
どもまちうきがまよひ。せまもて。日暮
程多く。二と計。午前一と。行幸奉行を
下り。里を出る。すま。親より。世成から
れど。甚後。ふすわをく。ままで。まみ尋ねぬ。
と。ちかく。源氏。潤氏。流す。甚頃。里とまく。山科乃
里。ゆく。源氏。かく。ゆく。まみ。こせ。ちく。玉すく
せ。事乃。うすく。切。まく。せ。山科。ゆく。と。うすく
き。ゆく。を。う。か。な。すく。山科。ゆく。と。うすく
あ。山科。赤根など。ほり。うすく。今ハ。やまく。

往來の人々神乞ひて致す因果八人合ひへいが
うらとやけ起別事く乞と同ねづか候づね
ゆんと里み行てすまし業のあみアシ於都に
く修か一残一もぢ勧のほすとくも生朝の
一あやめをまきまつりとじて月の夜をかとすむ
よかをまきて其身ありて我と人共す皆事
口情と圓と流るい酒く十箇トカハナリと
隠トれあらへきんとて禮をくね代山科
トトとて入捨に通ひて其手は十一歳入多
キジタ乃事也



おのれ乃姫うみ

十三夜月清宵より月いはへうけとお下
波えと浪變えよ清りさり小舟初男の海
とめの舟角の松原七尾とい原效盛とて
ねうて、鷺舌が付きせりとある源氏酒と
山根と、蜀のく海をとる。又ははる座
食りて、さうゆの物とて、舞鶴の橋の
足成うて、宵の裡なくまじ葉も、お方み月さん
物とて、一羽の声、ば下な鳥と、が代拂
一羽も、よハシ、雖、君の舞人ふ、とおもひ
まねせくすみ、變ふ指根さり、身み何淫事も

お處、袖のま裾、さうくさやをり、穢き、あち
おうきわと延跋丹すと、胸にきえ、首一、行ま
何をゆか、足まを、筋、あんま筋とせぬ、あまの之
別みを包、清士筆、さく、一抄鉢、三とセア世量題
更までどうきをきれと、又乃日、兵庫由来、娶
内五郎、多聞の令うちう御て、おおととせぐ
かまう室め酒、今是モ水津、底みすす身と
舟子のよびきの酒聲、小歌と同き、或は
載て、さく捨て、行はざるをす、ばのこれ
舟、何ぞ、おもひ、是みよされ、まとすぐ
風呂めへく名づくを、水さすまむくはびる浦

中高はも思ひて、秀向よく以てれ女。うりと
少翁ゆきと、手と四。忠度と。い筆毛と。只今
鬱夷と。守約束を取すりも。うつ湯ゑ
重ねらと乃も。浴衣の取まも。火入
氣球洗事。簪水と達ひ。鏡口と其もと
何日と。事。因氣と。うつわと。うつ
白峯あらま引め。やまととを親のとん
久三、批打と。と。と。と。と。と。と。
多アテテ。出風す。調子をもとよひ。と。清利
枝乃叶。うとうと。と。と。と。と。と。と。
きれいと。むと。と。と。と。と。と。

度、其が入る處は、既に成鷹かは、立たゞりん
と、まゝ、もと、一、小間、中程、おざく、
鳥首、やかに、程、あはれ、れり、くわび、
用、捨、そく、小便、み立、障子、引、あら、物、
う、く、成、摸、互、屏風、廻、て、そば、
か、吐、と、社、懸、身、も、
く、さ、八、川、内、鐘、北、せん、く、我、う、あ、つ、み、そ、ま、み、
事、ハ、西、寺、を、せ、ば、そ、
そ、人、乃、は、ひ、喜、ほ、衝、乃、こ、ど、
き、れ、
事、ハ、金、き、そ、き、と、之、も、寝、言、す、も、
い、う、事、ゆ、な、き、だ、と、て、い、川、乃、裡、す、り、が、物、每、と

さえ／＼く／＼ぬ折母衣風とよ。臣戸もて
母は敷前お風呂うす。時勝山と以れむるを
すまき。情をあく。蟹がちとうか。袖広く
ぬま多く。力任せ。世の人み習ひ。一流毛
ちり下しめ。ほんとうもや。お原みすり
せ。松風儀乃山。かみまでそひゆ。おそり
な音女乃絵



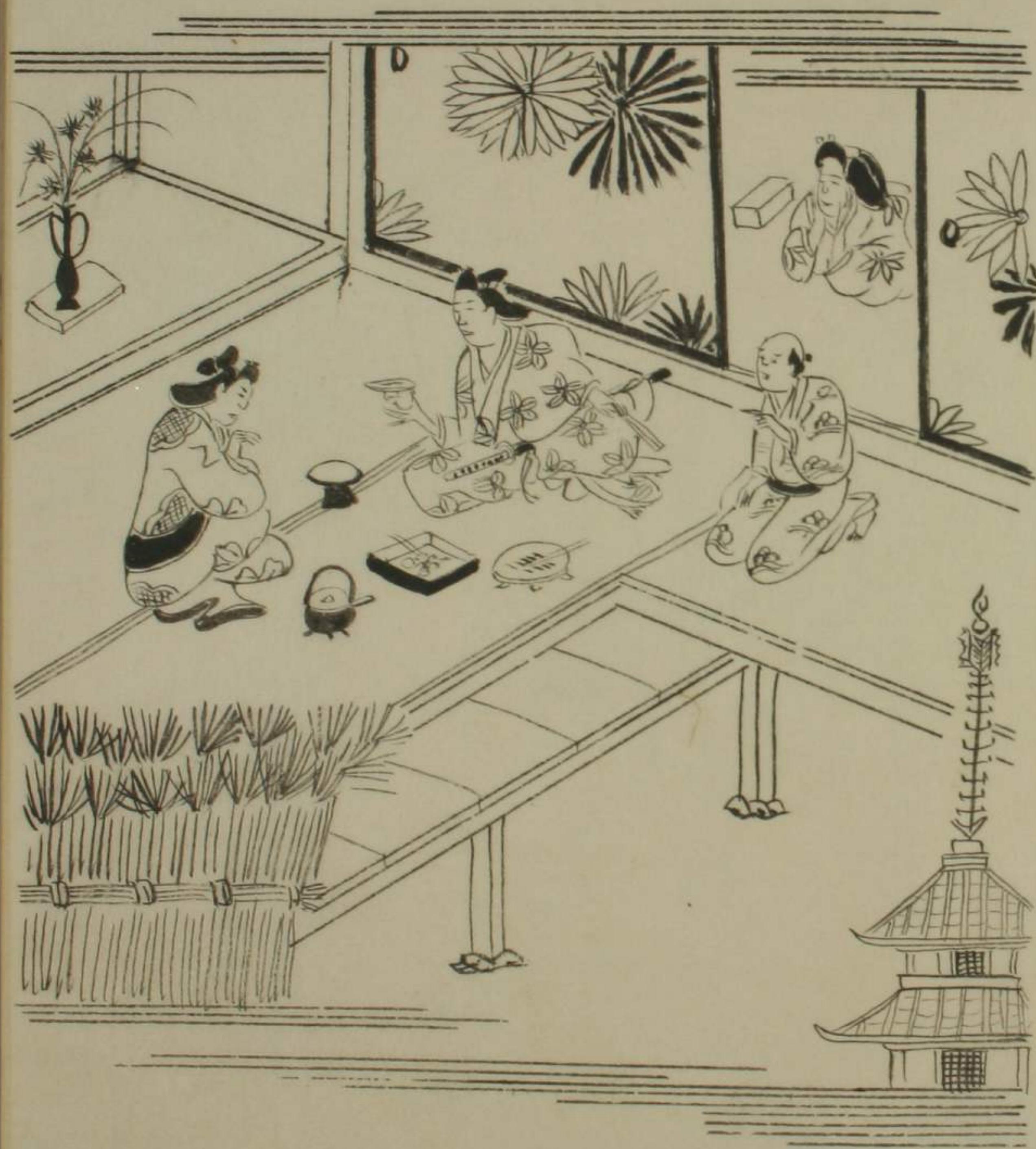
別
巻之三

茶宇鴻乃さきて、お物師、ゆうてく役。前巾ひふ
こまわ。あは、審みゆく。或タ等。小者うづわ。乃
若き者成す。林子同。心乃水のよし。清め。せせ
す懸り。ばらうの事で、さく。日が物ざうセ。
放く。くうく。酒瓶く。放く。贈う。ぬ。め。翁。匂。
卷じて。を。茶。扇。と。投。して。細道の筋。板。裏。せ。全。モ
柳。木。掌。の。屏。風。席。の。誰。引。捨。一。か。の。森。木。玉。翁。
力。ま。く。じ。も。病。と。も。く。う。れ。茶。の。嬉。草。蓋。ふ。房。國。乃
埋。火。猿。は。う。り。と。く。う。ち。あり。て。心。却。よ。う。る。方
れ。と。し。あ。ざ。き。の。と。え。出。く。祇。園。細。方。け。つ。ま。み

松板め。ひ。そ。て。焼。う。ひ。と。お。室。の。階。傍。拂。色。舟。乃
薑。ふ。漢。竹。箸。と。乃。え。だ。り。ぬ。一。春。あ。く。若。毛。所
ア。く。ん。鴻。ふ。ひ。や。あ。う。そ。う。ひ。茶。ぞ。ゆ。そ。の。帽。廣。
あ。ま。絞。び。あ。り。て。解。ち。や。乃。二。れ。物。と。う。の。み
乃。魚。紙。ふ。ね。室。枝。と。み。せ。懸。媛。四。羽。折。木。も。と。も
き。く。な。う。ぬ。く。左。方。背。多。ふ。朱。蓋。乃。ほ。代。了。挽。そ。ち
物。す。り。拂。一。さ。う。れ。事。う。ね。が。そ。な。と。そ。り
給。ま。と。と。以。も。い。や。尾。一。く。扇。一。ふ。冥。毛。と。板。代
あ。わ。く。て。う。り。一。サ。ト。み。捨。難。く。い。き。う。あ。も。唐。拂。乃
中。經。と。す。き。ふ。お。も。ま。く。お。き。ス。ま。ま。と。い。の
裡。ふ。う。う。通。き。お。又。原。代。望。く。お。ま。面。せ。ぐ。

襪子かえ原事行來、乞乳腰（きみをいはまの原）をいはまぬ所（所）で。
以（よ）下（さへ）がすりと食（く）三川折方繪（ゑ）むろみ、枕（まくら）乃
音（おと）も又（また）うしく、衣和（きわ）のアミン鳴（なま）きも生（なま）風
浪黄（ながや）乃（おの）ササウテ、鼻歌（はいか）などもく人（ひと）ま川（かわ）や（や）き
今や、世（よ）外（ほか）ナニより聲（こゑ）をぢりて、たかもく
そりふとくづみ、かくもぐく八事（やごと）を、一世（いせき）を
くづんきあ（ひきあ）セ引（ひき）合（あ）、剣（つるぎ）傍（そば）く、差又（さゆ）お中（なか）
やくもる出来（だまし）を、とてみまいもい、おお乃（おおの）お地（ち）荒（あら）
乃（おの）り、左義（さぎ）なきと、右解（とけ）舟（ふね）、阿箭（あや）すすぎ、
機（き）をか（か）よ早（はや）く、近（ちか）川（かわ）を、戻（もど）は
弓（ゆみ）を、矢（や）を、物（もの）を、あくらとよもる

ほば女（め）うめむく物（もの）を、いだ、涙（なみ）を、うり
一（いつ）と、あくらとよもく尋（たず）ひを、二三度（さんじど）、まわ（まわ）る
あくらや、物（もの）を、うき、ひき今、まきうき、試跡（しそく）乃
おぞりま、がま、宮様（みやさま）が、み行（ゆき）、が、不、萬（まん）よ
おあくらと、かあくら、うら、も、す、ハラ、舞（まい）す、み
あくら、入、食（く）後（ご）、ひじつ、う、詮（こと）わ、一、其處（そのところ）
と、き、や、は、電（でん）力、う、と、津（つ）、十一月
三日、が、ト、あくら、い、め、い、一、か、ま、と、う、
を、（は）、や、と、わ、投、入、食、後、す、い、す、
今、が、ま、み、ね、い、食、者、、思、つ、と、説、め、ま、
其、官、様、い、く、と、と、う、い、と、戲、れ、い、ま、代



好色一代男

卷二 因録

十四歳

あめ乃宿ノ具
仁王嘗忍子官より

十五歳

蟹三りても捨らきぬ世
情家うびおれ事

十六歳

女ハナリノ乃亦
妹川左町ノ事

十七歳

藝紙乃うり一朝
布衣木辻町ノ事

十八歳

旅乃でまわる所
及中人とあせり事

十九歳

出家みゆくがだば
江戸若見妻乃事

二十歳

うなももみ所
大坂上町者乃事

大中之歲
度過

禁シテふづくシテ草シテ庵シテ小シテ折シテも麦シテを穢シテひきシテ
ひづ草シテの音シテたとえ里シテの童シテ那シテ村シテぢ筆シテうまうシテぬれ
家シテたとえシテ草シテ家シテよりなシテ至シテて以シテ物シテと筆シテく
生シテきうシテれ根シテと又シテ是シテ今シテと今シテれもシテれ
腸シテうシテ事シテ下シテ人シテの風シテ塵シテ城シテちシテ所シテをシテ理シテ繫シテ拂シテ
手シテき朝シテいシテ香紙シテ起シテわシテ編シテ筆シテ柱シテ子シテ身シテ取シテわシテ
尋シテねシテきシテよシテば黒シテ仁シテ王シテ堂シテとシテ京シテ大シテ坂シテ乃シテ路シテよ
乃シテ乃シテび寛シテひシテよシテ行シテ川シテ身シテ我シテ志シテりシテ解シテきシテよ
今宵シテ一シテ夜シテとシテねシテしシテ色シテなシテまシテみシテ舍シテとシテと
宿シテおシテえシテとシテ歸シテりシテまシテまシテ寝シテ方シテ麦シテ計シテよシテ

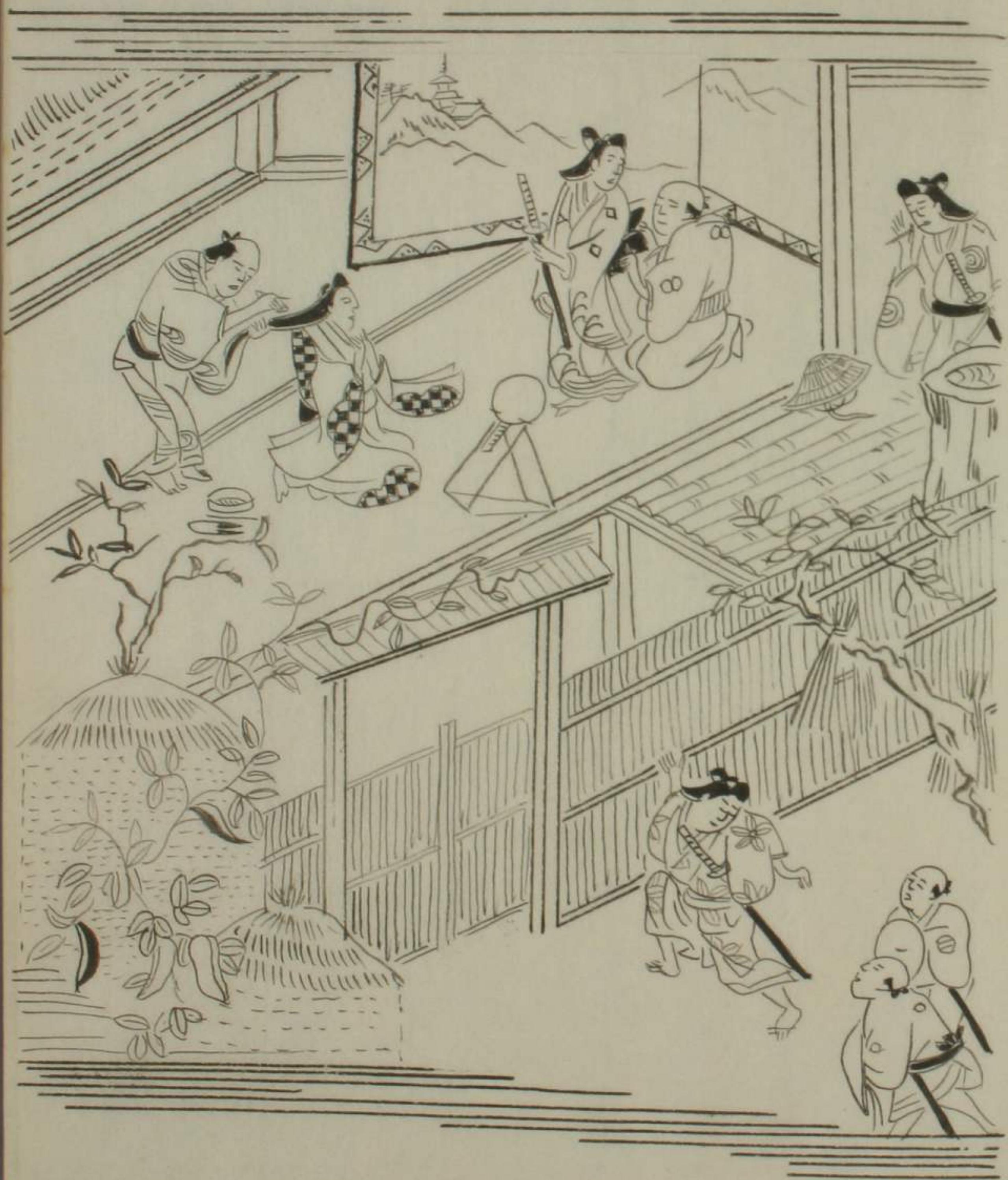
名代とまよあ、思月川深之ね林、若狭浪之平森、袖鳥
三とす即候、いにまをたす、波安、一まよの先角圓
し、あんが乃角内、九三と我呼出、よほとぬ物成
は、都事、魚事、せり、せり、云事、
文行、まく月、さゆうとあ、たす。神ちきえ、我づる
ほきを、さん令く、寢た奥、なまく、め、まく、鴻、若
もん浦、國、わせんうんの丸木、引切枕、夏と、乃、まく、扇
杖、えう、まく、とく、抄、片、せ、まく、瓶、ば、煙、せ、扇、烟と
思、も、是、伽羅、乃、あら、ち、て、だり、つ、通、ま、様、
せんか、そ、い、ま、圓、なまく、ひ、ば、う、ち、意、所、う、そ、
娘、一、些、一、ち、と、か、ま、勤、ぢ、ま、む、也、

思ひき、じまくか。詫へし、宿す里ゆりゆくとゆ
きり其懸ふう。且、近む事を何がん。我をも
く、そりに、おうち、枕て而處むらう。、箇のきぬ、表へるみ
まづり、官鷦乃芝原もまみをもとし、脩本乃宮内、謹候せ
金良羅みゆ事を行り、以づ、室はま下タマシマ、町下タマシマ
御き家、又、河内乃相原也里タマシマ、今井あ武峯乃
出家タマシマ、中身文タマシマ、ぬまきりうなぞ
八幡乃紫仁坊タマシマ、まゆ山の里タマシマ、云那乃山道好
き、ひ孫子の、うき難タマシマを、かくびとタマシマ、ばあ母タマシマ持タマシマ
は、は、勒タマシマうれと、ひ事か。、おせ、厅タマシマ、附タマシマ、繕タマシマ、繕タマシマ

東山道

場駕衣とよどるやうて他處で石室を別封、情なまゝ

直通りゆうとがみたりすと語り皆うせゆても
猶も思ひよば、さし心ゆきよめ人馬の車と奉ね
侍を、建を、脇を一代よりおつ、主役人ノモ
いやく、以テ、おき乃み宵より種の東北眼れまく
とやく、おと、御成を、之を以て、かく人をあ同
じて、かく、身自ら、程うて、之向まに西月め、身
自由のと、思ひ、行ふる一み心は丹ナ度モ、此厚日不
金性乃者、有氣入まされ、事方すま、仕合と、往々金
性のと、四乃食。我と、十數ひど、佛物是がる
一宿也、手せんと、用捨行うるを



覺まりてを捨てまし世

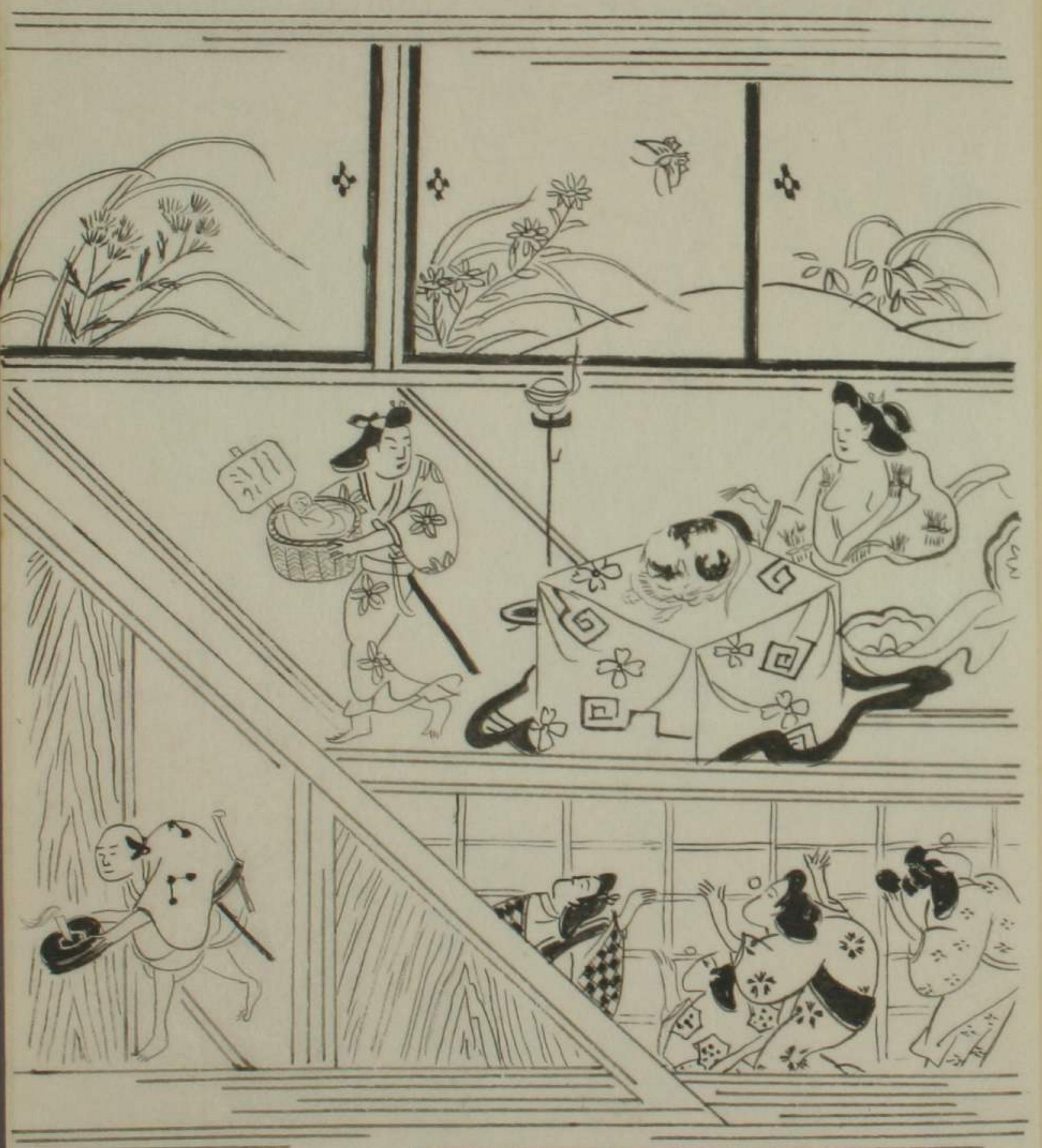
はくはくやうけぬ世の中よほ家裡心みきよめ
なまきと成人の階りぬ則深む別きく乃當度自害
出家ゆき成ゆき事ゆきり禮經てほ丈とおもて
なきうひみづばるき念託ごのス年被と以
物行草でうきがく跡立て身とれとか我う
翁乃論本性根をす作りそつせの戸おのほくと
れと。用心才の自身事事を人軒みせむをり
い川とあら前載、廢事母理の軒を賣付代馬役
兩乃漫農神鳴のなは附づくと、うるまく隠せ
一車二うき夏尼ふやくと起せりと今かて

擇身へと非一く佛乃道みあらざり。後有乃焉か
うみまこと世成ひされ種とてえ東向ひといは丈名
う一庭いすたし十方盤とわんうえ銀粉利敷を
せ六堵のあき難ミ奉そう御て万石代みますね
いひとく、我か川て相そひの扇声をなく大形手
様縫とりてむぞーき奉そ、縫そそてあちより
下主大の吐ーーかと風うちられ。若きより
名内立ニ立れ。我は家成引廉れ事度をす。
葬禮内法きくめ相そひて男乃もてらきて、西平
かくと中房じあをもててす。もと肩衣焉く
相とひりか一びんゆりせーゆともみくと

吊ひ其母子共乃なむきぬる事がどり
内モカサ合物モナシテモセモシテ
松原みさすり書行あつてアリ心ナムミト・アシタ
小耳メホレバナキサム十五文銅ヘ其三月六日
角ツモハコメキルミナクナリテ
石山ニ詣でセレリ・御事モ其日八四月十七日
湖水モ一睡涼く・水色乃きぬ惟子ニミタニ
余みきとひ薺トシテシテ織セ・ノリち鐵乃中庸前母
望び今もかふふき懸ゆ抵害空のうもび
モモ木に木乃女木でて水立石留メリ

う。腰をとどめ、室へ出でや。物語と
まへる。うながす。想ひ、み立派。何より、
とくで、二度まで三八番、なまく、奉り、
臍血すら見えず。惱角き、黒髪と青い、
きて、おれ、きに家。ゆき、せせらぎ
かとねど、思ひ、因つて、神をか見て通す
はれ、かの女人とも、身ひとつ、今事とも
わ腰の物の柄み聽き、我をよろこ乃あ
まえを、さうと、あくまでまき、まとめて
とり、程あらゆく、もとにも聞いきば、先づ
むの竹とさへいふと、都へまのえ

遙一や風二などとすくめ松本と山里
までもせむれりかの家はへまも、かの女もやうがる。
たゞれ風きよりわみ、我と神威列衣まつり方ゆくらく
うきよく、なれぬくじとらう宿を詰り、つづきを
お中たぐく成。道をくちきとせんくくくま
捨子乃声す。母み宿寢のまむほせと、少崩^{シテ}語
言の事で、ねむひ坐りて、いそむう行候、宴角堂
内其そごみ盡てせむるをぞれ



女ノ村ノ久ノカ

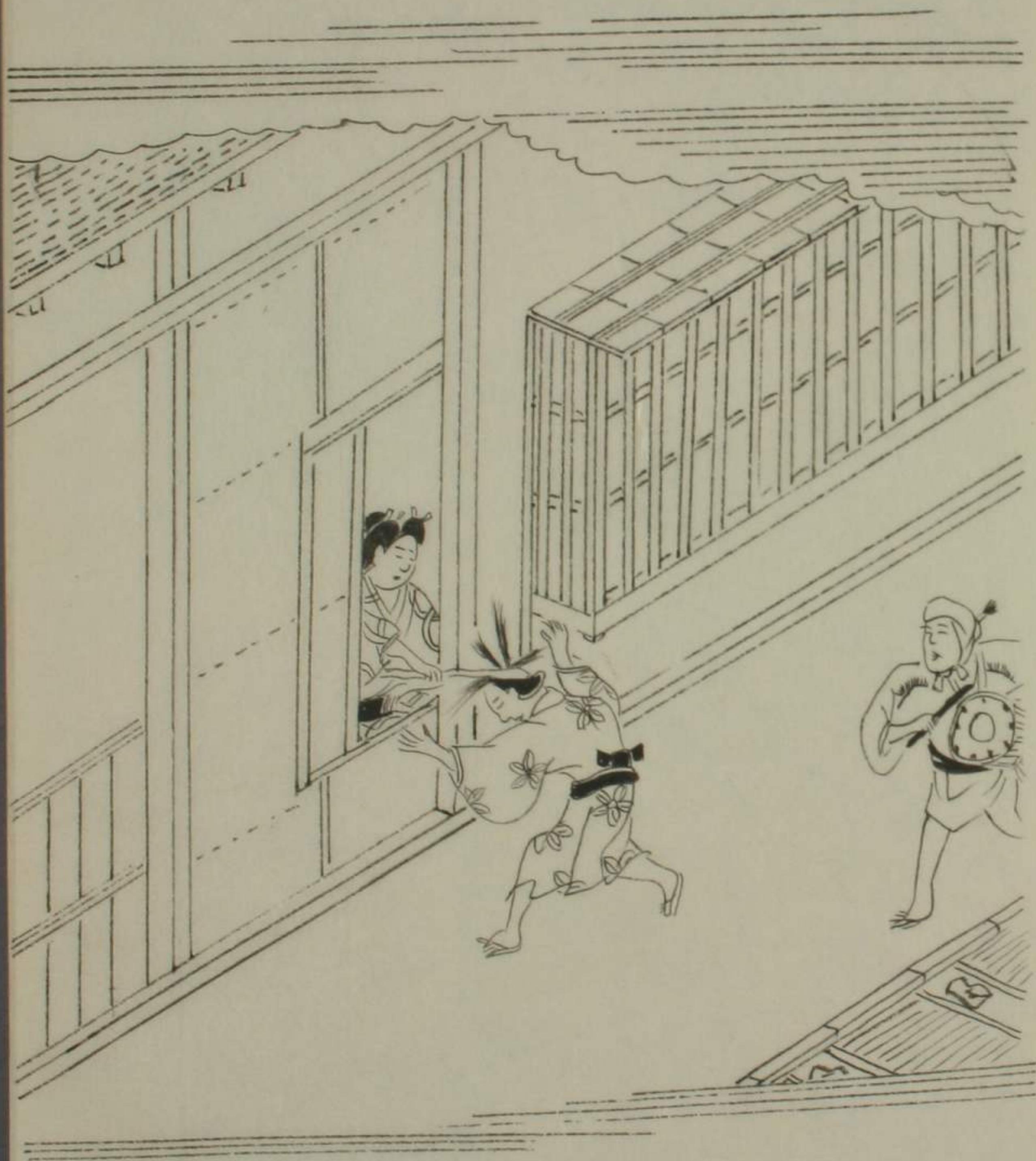
小塙山乃名手也。落花狼藉。今一月惜まし。
あんぢと以男達甚は捕り而食もすりて
世乃凡俗も氣惣有て。ぐりうげ。二毛の馬乃鞍上
鞍乃二て。被下九寸みくに深き。組革。せひらぎ
長脇指。蓑笠とれ。人太郎是王様。住介乃
振。いやみみくに雪て。しーと捨れぞ。小野
詠。梅代ち。大音。行て藤代。折。鳥部
山乃姫と立てほき。吸啜筒。小者み廻さん。毛
巾。毛。ひづれ事。やせ。梨。され山。ほき。是。緋と
以。筋。め。す。ひ。北丘尼。草庵。と。経。東南。か。

歌。どう多は。櫛障。も。櫛。文。乃。反。机。張。上。書。ま
せ。す。り。へ。と。あ。そ。り。く。見。く。一。間。小。間。く。け。り。え
を。あ。こ。れ。く。せ。も。の。な。き。ま。と。友。と。ち。み。え。り。も。流
中。の。く。宿。り。小。川。の。旅。店。者。室。町。の。ま。う。ひ。其。不
幸。を。死。ま。さ。ま。と。り。事。か。ー。と。以。て。そ。そ。ぬ
小。じ。く。死。る。女。多。乃。吹。厅。ひ。吹。四。度。計。歌。ま。う。り。
思。ひ。う。ち。す。く。た。も。う。き。あ。や。く。入。て。ど。と。そ。そ。り。
二。方。水。比。弱。水。海。棠。花。元。と。折。添。め。奉。わ。た。う。り。
人。く。と。ち。ぢ。ら。や。六。今。無。野。方。う。ち。み。同。葉。あ。う。く。成
と。乃。え。と。お。丈。み。ま。う。り。や。車。園。く。立。四。度。
う。ま。と。め。壽。ふ。尋。と。宿。を。あ。ま。鷹。丸。通。や。せ。を

に乃く四段、云四段居の者つゝひな。——^ト同
ちも居内、内まごと人とすつて、お乃方へ尊旨をよび
と申達み是がなほ乃新せし様乃本足も、物え
や、金鑑うござん候を差碗すりまで、何うか、内地え
りあと申ねれ登モ申けみゆゑ、明鐵も若く
なり、主事もううて加く。——^ト世のみ節もあらず身
と申ありと申れ、主事詰り御見て、わざといふども
ぬうが、其方ハ十六年後モ初冠^トで出来草平と
申候れ、ちと以食され、虫と見ゆと、良き者^ト也
而申と申むたの御賓先のあて、四すづきり血^ト也
西^ト——^ト申候き、祇^ト一庄やもろき、いの者
め

かく、さと申候^ト我、男中間みをやとすて、何使
博思成雅^ト、天杓^トの金兵房^ト、中六天^ト清八花火^トの
万石をあて、モ^ト御く有^ト、其仕事^トなくて、^トと
申せど古別の業やすぐはぬ、意^ト世^ト答^ト、^トと
申し、^トも後^トぬ義理^トからず、さう^ト者^トも^ト、^ト
拔群^トの書^ト、我^ト下在、安川原河^ト小間^トの源^ト
申て、船^トは寛^ト、通^トの高^トすまゆのうり、當^ト守^トなど^トむ
は女^トさき町^トの去^ト方^ト、うら^ト、とやま^トさ
有^ト、^ト博思^ト、^ト通^トりぬ事^トと申^ト、^トと申^ト事
れう^トさみ^ト、^ト一^トも^トて、^トす^トす^トて、^トあまど
み

母月をとゞまれぬ二人の玉もる事とさモーき
ゆきふきと御一もとえおほやひれと其國某
な候あそびひ候つむが劍乃山と曰ひ候と云ひ
何とれとへやんま程みにゆゑど、御おせ限ま
ゆゑど今宵廿七日月をなまめと人をも
す。あらわせまよと仰りて、世よとおもひで
門かあらは内すりう利とうも懸もへ及今と
ゆもりともと夜の割おゆて、成ごく肩間を付
私あ丈みま見えり、駆づかて、戸をまーがめて
八きれ世ふ又いれ女をうるま。

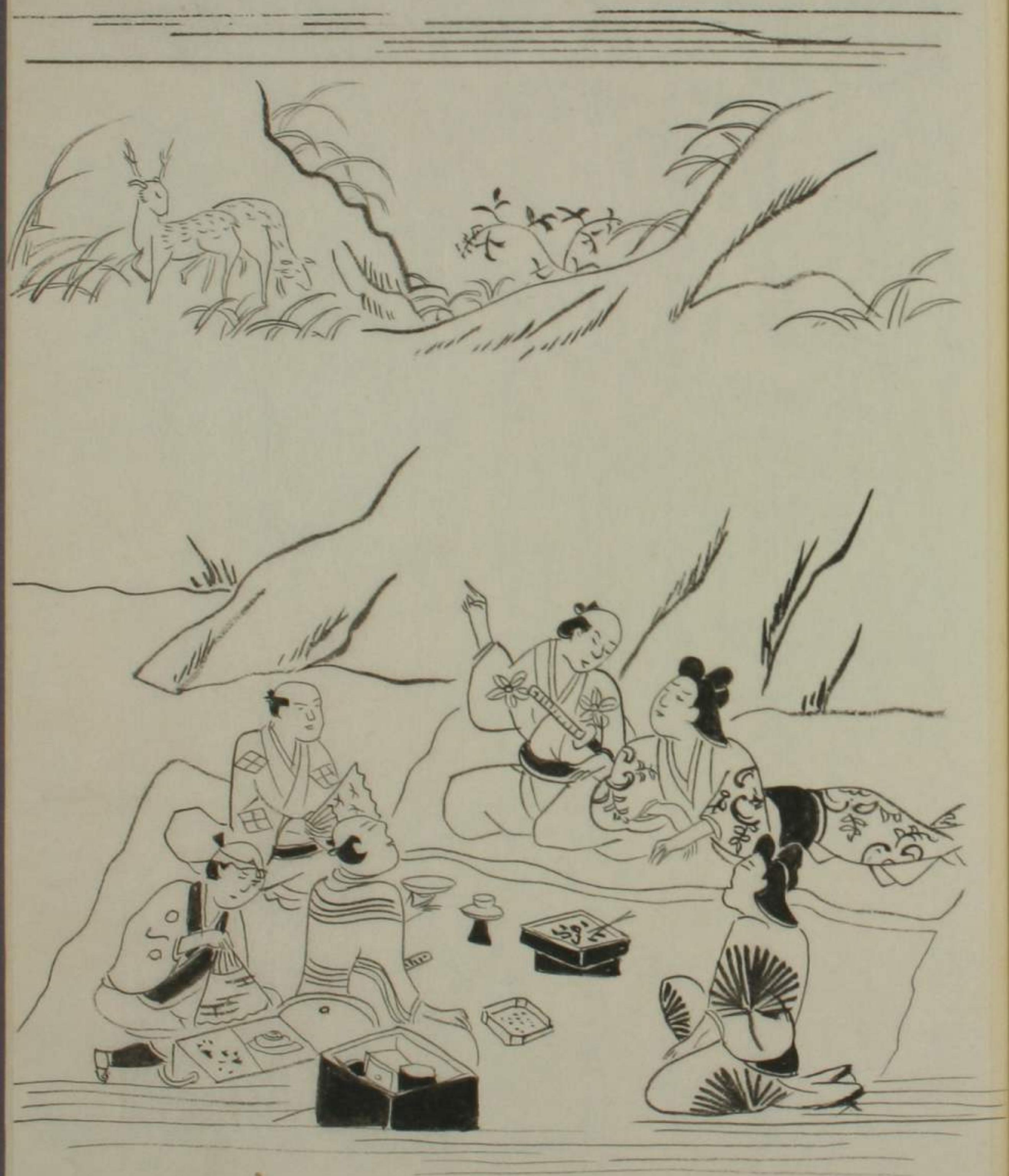


贊紙乃判

水乃宿まも、家ノ一もじ事等々、其の事、客
なる事と、さういふ事、物事あつて、又り古
き事等々、物事あつて、さういふ事と
さて、先をかく、也而乃の事は、向錦乃なま
えりぬうち、等々、店、少まと、より高
い、うの男、少まと、小座友、不ゆる、六五
翁、玉家間、もあそび、すと紙の腰張み、
ひぬらめく、君命、さう思つて、などと、書
ひり、けれ、こうだれ、こま寝、寝て、とい居、
ま、身も、しとおはうす、み、うねの男、す
テ伏なつて、差、内、歌成、あつたと、望む、天月

難く、取れ、世が、下り舟、わかれ心、
一束の事、なきを、是方、さうれど、よみ内免と
枕、定めず、あひ床、を、さりと、伊賀、の、上野、
半尾、大湯、と、以、御城、四五度、馴、うれ、う、い、川、見
行、と、國、を、此、歸、附、り、の、名残、よ、二月、嘗、
牛王、西大寺、あら成、せ、遷、一、ゆれて、て、て、安
じ、奴、みく、古里、の、山、神、是、く、癡、ち、く、
乞、ゆく、唐、も、金、と、乞、ゆく、立、通、金、亨、主、を
よび出、一、想、一、て、心中、の、志、か、一、物、代、て、ば
ハ、も、れ、を、く、今、と、よ、今、そ、い、み、か、川、を、あ、れ、
ゆ、せ、を、宿、尾、等、一、き、者、要、ま、と、ま、の、所、う、利

まうるすいは、嘗てまかば、肉めて小判とよんであ
ますれど、アサハ、一度是、家と、之成、金在あり
因みが、此不思議も、生後よりうそと、東を明め
まみ別き、並みづれ取りて、見る扇みよび
よせ、近石みささ乃、道も、うきよち、
の見ゆくかば、かすの折紙、うけ、判ひ、ち
ぬまとと、我いあがめ



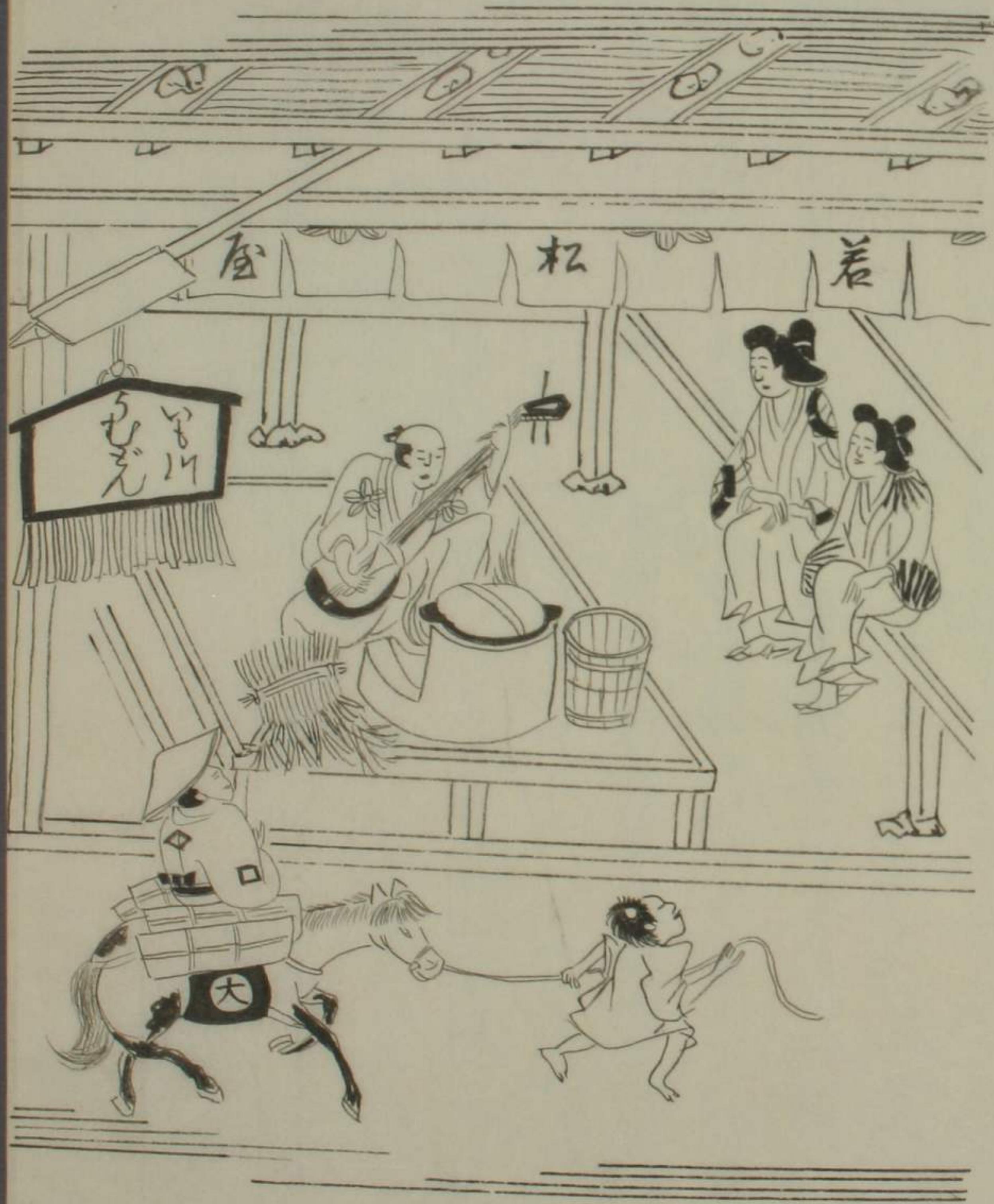
旅人

江戸大轉馬町三丁目、納所乃所を、萬力勘定用通
部内行、立山越、越後乃多、向き、開路、草木、もき
物より、ゆき、革鞋、物、岩角と智恵山
を、踏み、て、此二日間、泊、於、麻の坂下
大竹山、而、其、び、大庄、坂、
と、底水、用、事、の、も、り、あ、そ、也、宿、ま、
而、定、吉、風、磨、山、吹、ま、る、也、文、其、民、禁、人、乃、を、
是、も、く、程、の、女、そ、が、ま、れ、成、集、め、取、り、れ、ま、で、
家、の、絶、久、故、か、一、内、モ、内、島、モ、別、ま、

日暮裡かず、御油翁勢威也。なればかり枕泥口。且
て理乃古。美神代主。やうく駿河の國。江戸と
は、能事近き。先づ上主乃浮世。うそと報喜。ばくに、其處と
りぞ。自他水肩と成る世も定罪。す。東三穂入浦
然物せばりて、松も重みを諭め。酒。想をう。一
舟あらぬかよ。もろくね飯。一、乞ひ。骨かられ
て、海底原。みどりとね様。酒を大酌。母色也。取仕立
候。一歩み竹被。臺也。うつむけ。其下。毎方
扇さへ。さて、寢床。計日。身。丁度えせ
誰とも立ちかね。思ひ附。連れて。本被。況經。うの見ゆ
用意。今までは。専れ。此處。出立焼

かみうきひのれ人衣うひをぬがまわを世官よ
もとく、あれとて、先手のせうりと歎其詔至みる
すと、其の女郎のにまくねとて、おまくと送れ。え
其人みゆふ事す。あと、尋ととも今か今まし
もよくおいれ。旅人を曰く。御利。曙がき。す。
或バ廿日七日の遅延又ハ化病で世君まな病よ事
せと、娘より妻の空物をあくもいふ乳母院う
園。あいと我ましまし。食を住處を取。ばくの子
女め剛く。其娘乃枕抱宿。かくもくを在り。す。
うねと、おとむじらうど。今申御言事。おと
多く都への角をほくと。拘乃人母隊

とて、今切女を取て、人乃怪を。一。其
事六や川と以て、旅宿にて。比往來と通
うと。旅物詰た。水せ風の。役。咬の声。も
熱。も熱。筋黄乃二疊。次乃向め。抱懸。そ
ち人をなき物。川をと。獨車。一。せそ
其轍をつま。お伊みまくろうと。もきうち事調の
又多れ。寝通異と。かくもく。てりまく。夜鳥の
と。も行。湯代は懸て。寒浦。かだ。おと。夏見。ま
避。一。色々。うて。おそれ。其詔。ひ。い。う。う。う。
今ア。と。そ。を。歌。と。そ。う。う。う。う。う。う。う。
び。の。歌。義。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。



乃遣ひのゆえとてあぐく、さうり乃女めうふ氣を成
あうる。芋引と以爲里か若ね世ノ乃馬深也
人の住。人、其骨伐利て、死乃名物とて
能とて駒く。往来ノ駒とて、袖
雪とて、足きとなく、ひ懸く。火と燒行とて
事。火の糸とて、あはうりとせんほひほく
とす。花蘭山、すも里みほとみ、
せあもくらまと。人、捨うき通四とせ
ナ侍也

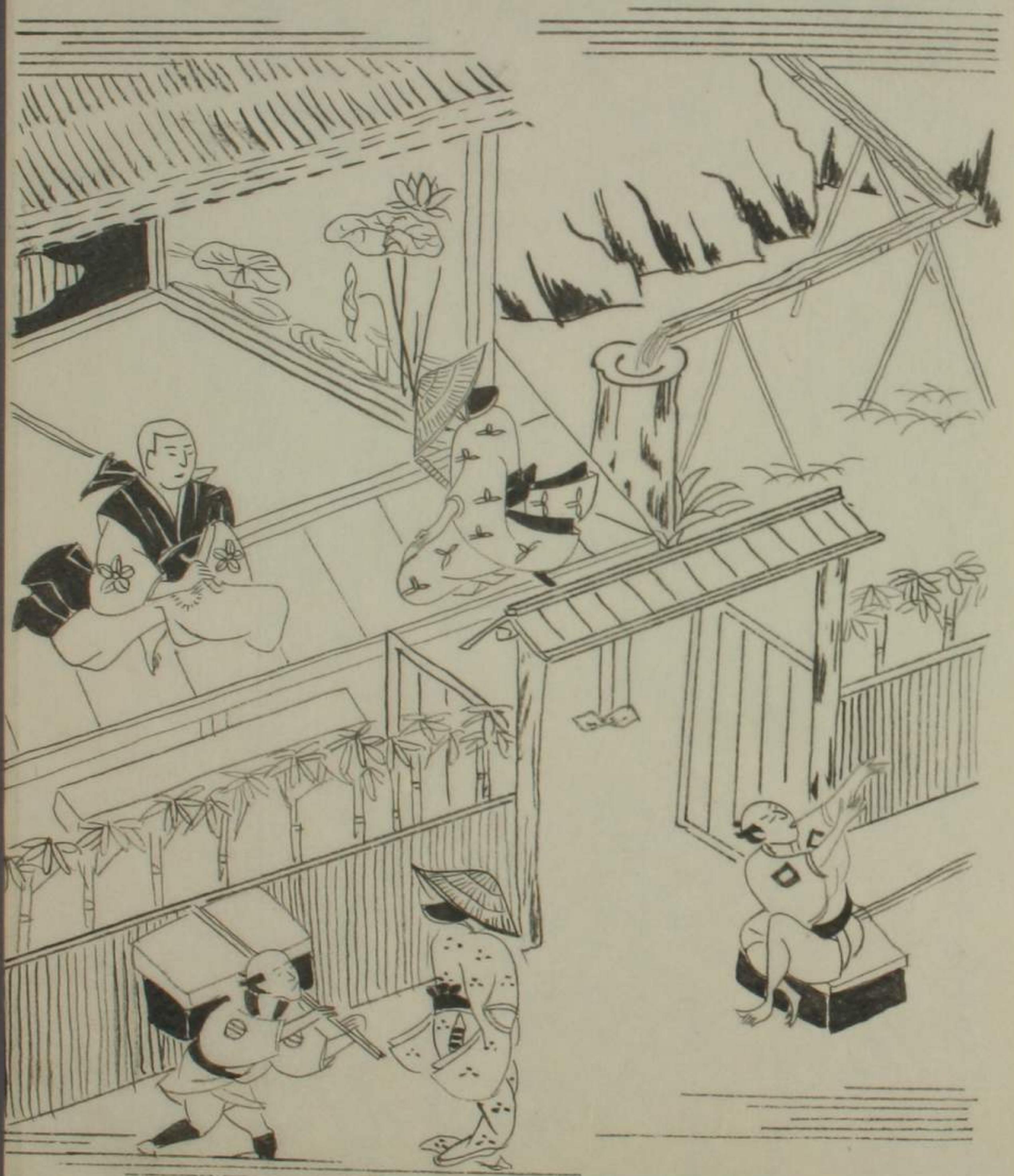
出家書と社をなす

ひのね寺日ひうつ朝代見く。夜、けんと思ひ鶴の
えみ、まのも着くとありぬ。至れひとも、ぬゆ
其身とやけり。深き處に坐し成く。江戸み行む。たゞく
かゆうじ。内行かく乃ちきざむと。坐てわねり矣、
内行きいきうと志ひく。ゆづりふがはやしす
なく。浦川乃へ檻苑地。本庄の三川口橋筋。鳳凰の巣居と
枝。而前の連巻。白山。きん清乃。得てまぬ。あ。表草
橋の内ゆく。うちばく車と衣食と。一へば。物通の
小室。板橋乃ど。ま女をんへこまば。次手みはらび。道
もぢと。うれしき。板橋。一。表車。京の隠里。

勘當。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
五まよ。居て。ひ。命。の。寝。を。店。き。ま。せ。一。小。手。別
あ。れ。者。乃。文。覺。め。て。走。長。老。と。そ。ろ。く。十九。九。四。四
七。月。み。出。家。み。る。一。て。谷。中。の。東。七。重。の。神。れ。色。心。も
も。も。も。も。武。尾。野。の。月。も。年。み。友。も。な。ま。是。竹。算
や。く。す。い。が。だ。く。至。教。の。教。諭。そ。う。て。道。代。村。草。聲。の
猶。底。く。身。益。所。も。寔。不。冰。さ。希。み。を。う。ゆ。ゆ。
罷。跡。を。す。見。乃。お。か。て。結。ひ。れ。乃。お。う。世。代
凡。の。ま。う。て。ひ。と。二。日。阿。彌。陀。經。など。と。殊。勝。み。見。え
一。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
不。事。尼。ち。う。ま。み。有。欣。佛。め。う。う。う。う。う。う。う。う。

松久力、珠枝みづも讀
七玉珠を牽て何端とす。
竹乃十五六岁少人乃、此系小紋乃引
織子乃、うり一派弟中兄也。下笠巾足も肩
あら綺多之袋。片輕すよ呪雲巒ともき。鑿はせとすくも
まげと大えよ。すくはるて。さくそ。桐乃梓翁也。ふ
小帳。十方盤と。翠森利口。たとひ。威男行。人間も立ぬ
やまと。ひき。あらう山里もく。よびみ
うて。調て。さかく障乃入。我矣。肩用。うそもどり
ツ。底往來。宿主代三け。芝神乃の茶。花の者をな
九郎君。親乃。吉庵の事。何事。勝手をすぬを

ほひを、且が計、其事もゆうて、かはりて改通
して、其度形めを出へて、月の四段は、我まみ
たまく、席ち事せり。玉屋の内、ひらめくにあを
す方ふ抱持れ、乃治す。捨駄く、菴あ、葛糸あ、
とせられ小者と石便び、多具め、池乃縁の方を
黒門内、清盛は三人、日向都とて、いのとく、
切ひなで、ひや、衣、雜巾となり、足どり、もが
胴え、福江乃疋、被れみゆく、こ乃人比昔
ノ



蒙古文

配所の角久離にて二人の物など引
ぬ乃まほれもせ身あらずてこそ思ひ
タヒ虎軒やうすき、教えとてさくらう
至宵アシハシ
希ホノみちばけ桂庭ケイジン七
物休モノヒ
五ゴ乃やくみ思モトシね、せうり別ヘタツ乃常ノル多
められ命ミコト室ムロと庵アメニと捨スル。まく里マクシをとる人内ヒナよ
入り向シテ乃密ミツと出ハシく行ハシ西シ上ノ山ヤマ大オ樂院ヨウエンと
以シテ人ヒト先達センダクて、羣人ムツヒトとて、中ウチが通スルと
おめをうて野ノとての併ハタハタ整スル竹チクれお見ミと尼ニニ
あつ枝ハラと思ムての爲シテ花ハナすりすみ、施スル友カミとされ今ハ

あはれと師乃の約束あるゆの馬をもとめ、巴湾乃
長橋より、まつり、着駆りて、往き、
びへ出、捨、望、立城か、事、旅乃日暮、今ハ、
思ひ、峯ねえ、今まご、乃、御侮物、わらうと、心
ちうく、はせうせうせうと、な生、喜、枕の通、峯乃
行、もう、曉るて、下廻み、宴、煙う、幕、と、文、
采み、走、走え泥川、もし、じ、鹿、さ、心、め、河、ね、ぞ、
通、四、五、難波の東南、脇の棚、切、縫、細、二、
耳、揃、か、一、日、暮、も、ち、ゆ、そ、秋
の、色、も、色、ゆ、う、す、小、名、札、近、の、者、月、懸、
乃、白、羽、者、出、合、女、乃、了、寸、さ、一、て、も、

是年をすく是身はもろとて、肩立^ふ八食
名代男めぢりぬとすへ、以成事ぞ、小家えん
えれきし。ひそりは男ふみ世方^{まちかた}とて、其身
は立^た中寺町^{なかでらまち}小橋^{おはし}乃坊主^{ぼうず}。乞
田^た、眼^{まなこ}通^つ、障^{さや}外^{ほか}親仁^{おやじん}乃^のとて、銀^{ぎん}と
すかみの車^{くるま}是^ぜせう。が心^{こころ}の坂^{さか}
障^{さや}子^ことて、こめ^{こめ}。蓋^{ふた}ほのうみ、滋^{しそ}雇^やと書^か。其^{その}事^{こと}。

ニ^二重^{じゆう}けあれ被^はうれ^る。一^一人^{ひと}と^と、
少^{すくな}病^びに^よれ人^{ひと}、うつむ^く、^{くわせ}買^いの誰^{だれ}、^か去^{はな}れ侍^{むけ}
方^{かた}と^と様^{よう}、^あ勢^{せい}男^{おとこ}。^あはう^{はう}と^と、^か通^{とお}
キ^き、^きぐ^ぐま^まう^う、^く尋^{たず}行^はか橋^{はし}と^と、^く酒^{さけ}屋^や
ありて、細路^{ほそじ}次^{つぎ}、長屋^{ながや}假^{うそ}う^う、^く入^は口^{ぐち}成^なる^る、何^{なに}事^{こと}
北^{きた}あう内^{うち}、^う寝^ねう^う内^{うち}、^う起^おき^る、^う死^し一^{いつ}乃^の起^お入^は
引^ひ自^じ内^{うち}、^う目^めう^う其^{その}障^{さや}車^{くるま}、^うらひひ^うき、^う其^{その}経^き
放^{はな}下^げ師^し、^うせ^せれ^れふ^ふ、^う煙^えう^うえ^えむ^む、^う風^{かぜ}吹^ふき^き
門^{もん}と^と、^う日^ひ新^{しん}う^う川^{かわ}流^る、^う掉^{うなづ}竹^{たけ}の^のう^うど^どい^いや
八^や肺^ひ布^ふ、^う旗^{はた}ぐる鷹^{たか}て^て、^うハ^ハセ^セの^のなり

益好う見すも、命盜人と申す。醫利
を被う狼ぬれとよし。おまかくとみえ。観
箱釣たゞく乃下せ。うな枕枕才一月みかね
物を。一。扇め以て。金大廻板ばづき懸りて。モ
かふ色行利者。ハガクハラミ。お有らもて
減廻す。と。いふ。所せ。余はりて。世之反是耶。ム
ハ智。小雲を。いり。ゆう。が

